

そば栽培の基本

九州バイオリサーチネット
手塚隆久

ソバ栽培に適する土壌

- 水はけのよい土壌
 - ー＞火山灰土壌や砂壤土
- 火山灰土壌は
 - ー＞透水性、保水性が良好
 - ー＞リン酸と結合して難溶性となる鉄、アルミニウムが多いので、リン酸肥料の肥効がでにくい
 - ー＞ホウ素や銅などの微量元素の欠乏がしやすい

火山灰土壌のリン酸欠乏



左:無リン酸区、右:三要素施肥区

播種:4月10日、撮影:5月22日

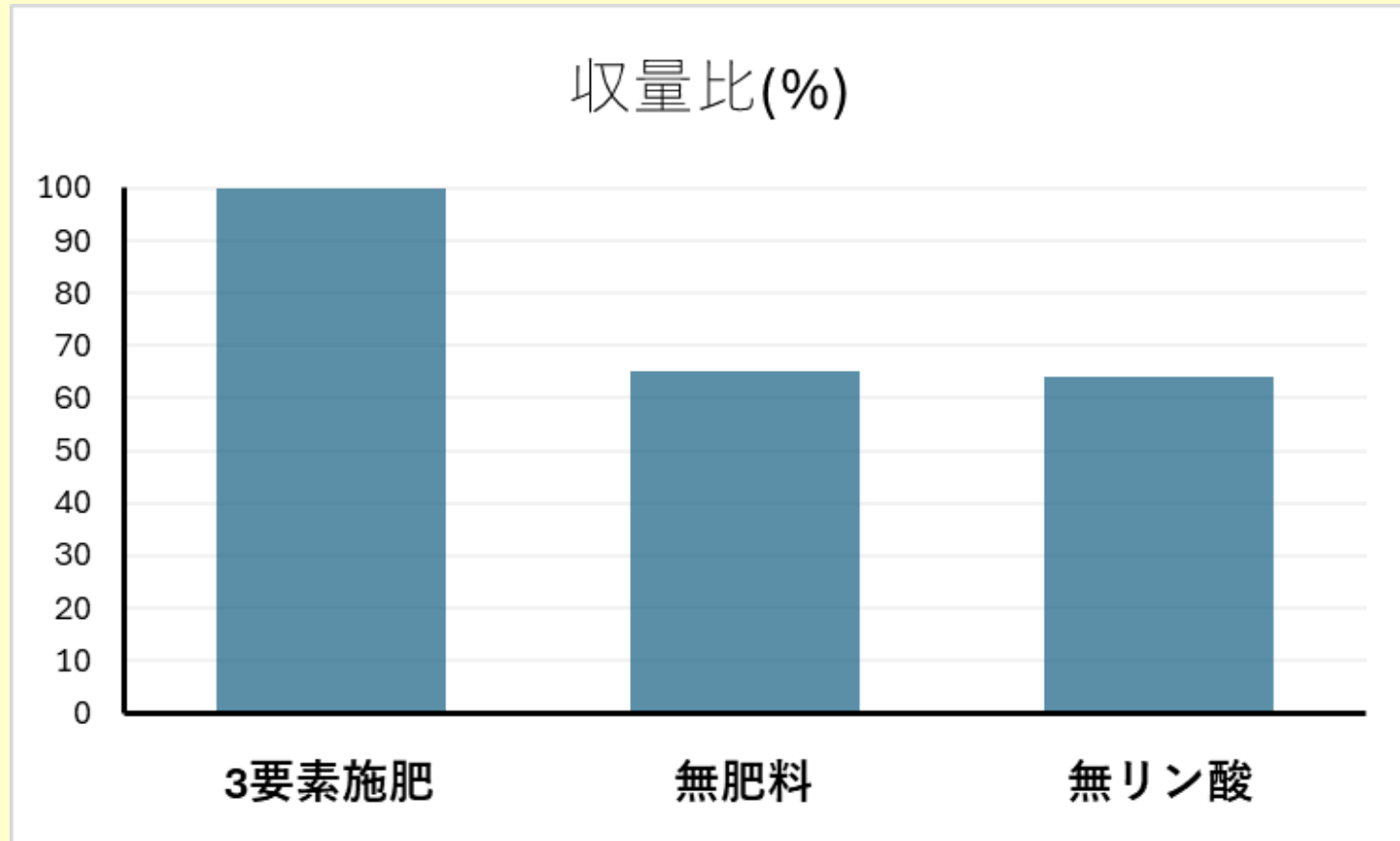
火山灰土壤のリン酸欠乏

成熟期を迎えているのに

- 一>株の先端は黒い種子と花が混在
- 一>畑全体に黒い種子と花が混在して収穫適期が不明



火山灰土壤のリン酸欠乏は低収



火山灰土壌の施肥法

- リン酸肥料の肥効が高い
 - ー＞3要素が等量、あるいはリン酸の多い肥料を施用
 - ー＞リン酸肥料は堆肥に混合して散布する
 - ー＞リン酸肥料は元肥で施用（速効性の亜リン酸肥料）
 - ー＞微量元素の補給に、堆肥やFTE、ハイグリーンの施用

リン酸肥料は高価
鶏糞などの安価な肥料を利用

転作水田の施肥法

転作水田の土壌の特徴

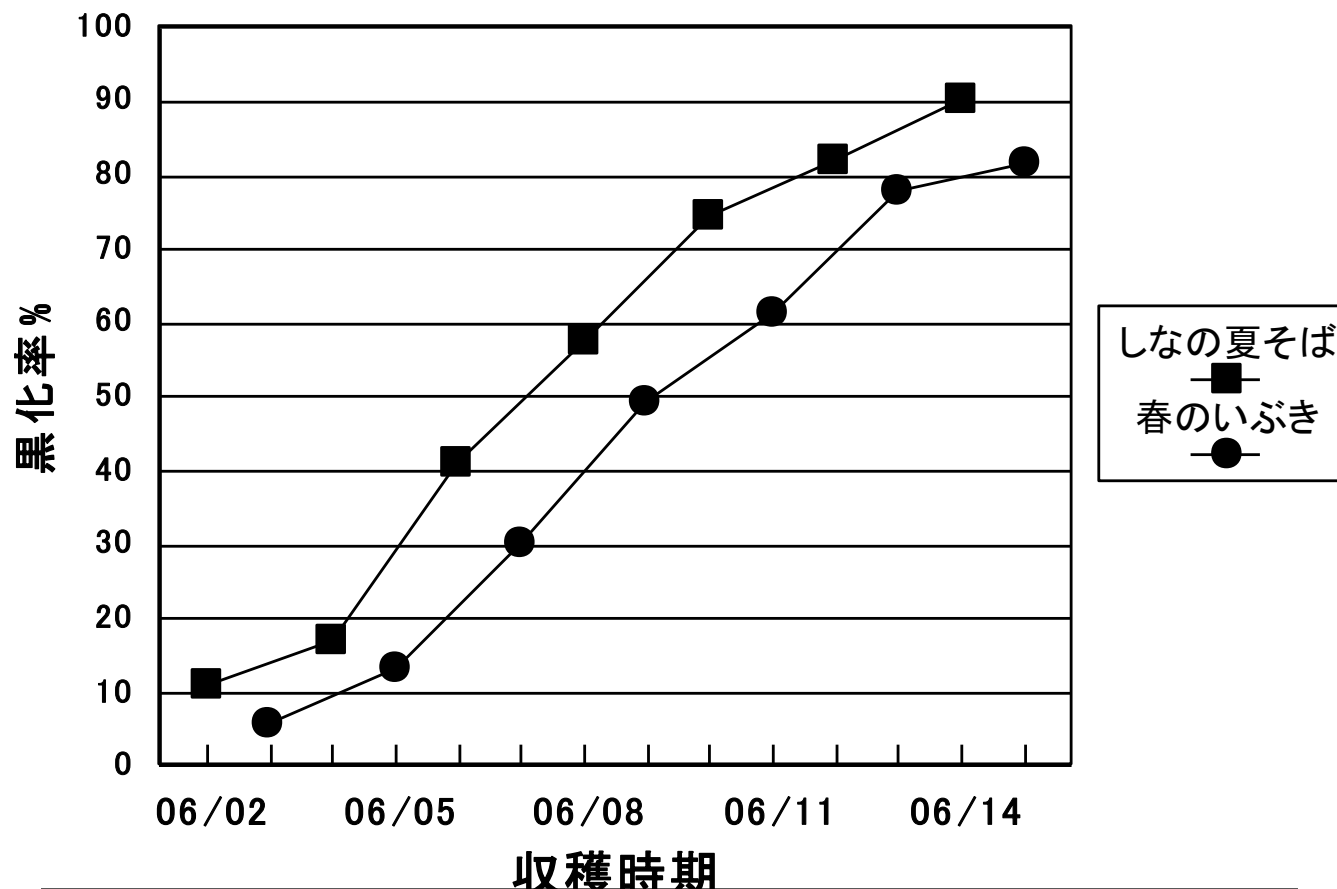
- 水田土壌は乾燥すると、緻密な状態で収縮し、塊状構造
- 硬盤を作って漏水を防止
- ソバの原産地は乾燥地域なので湿害に弱い
 - ー＞水はけをよくする明きよの設置(絶対条件)
 - ー＞深耕(硬盤破碎して根張りを助ける)
 - ー＞深耕(作土層が厚くなるので肥効もゆっくり)
 - ー＞3要素が等量、あるいはリン酸の多い肥料を施用
 - ー＞微量元素の補給に、堆肥やFTE、ハイグリーンの施用

耕耘同時畝立て播種



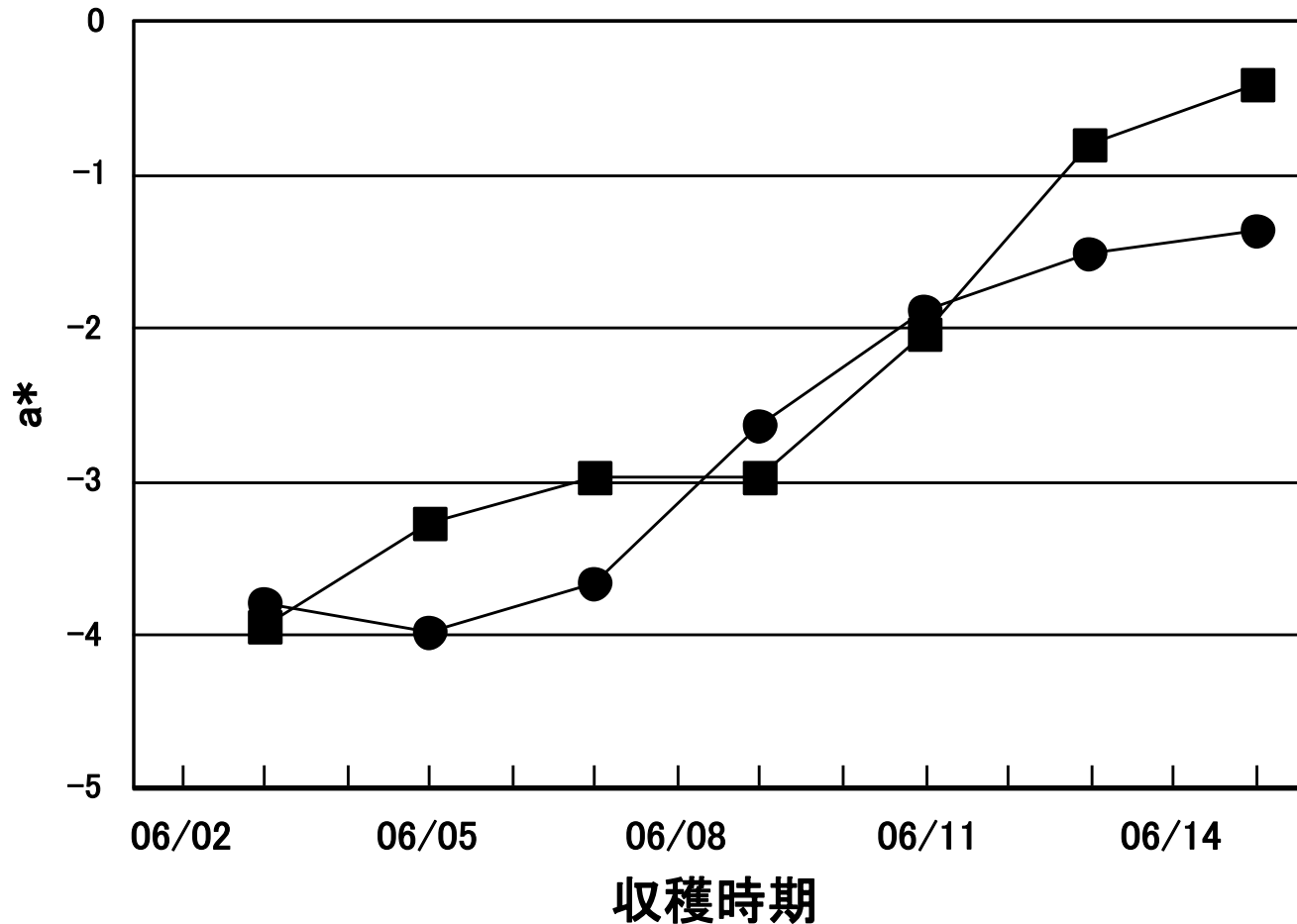
1工程：耕起－＞碎土－＞播種・施肥
播種時の天候に左右されにくい

収穫の適期



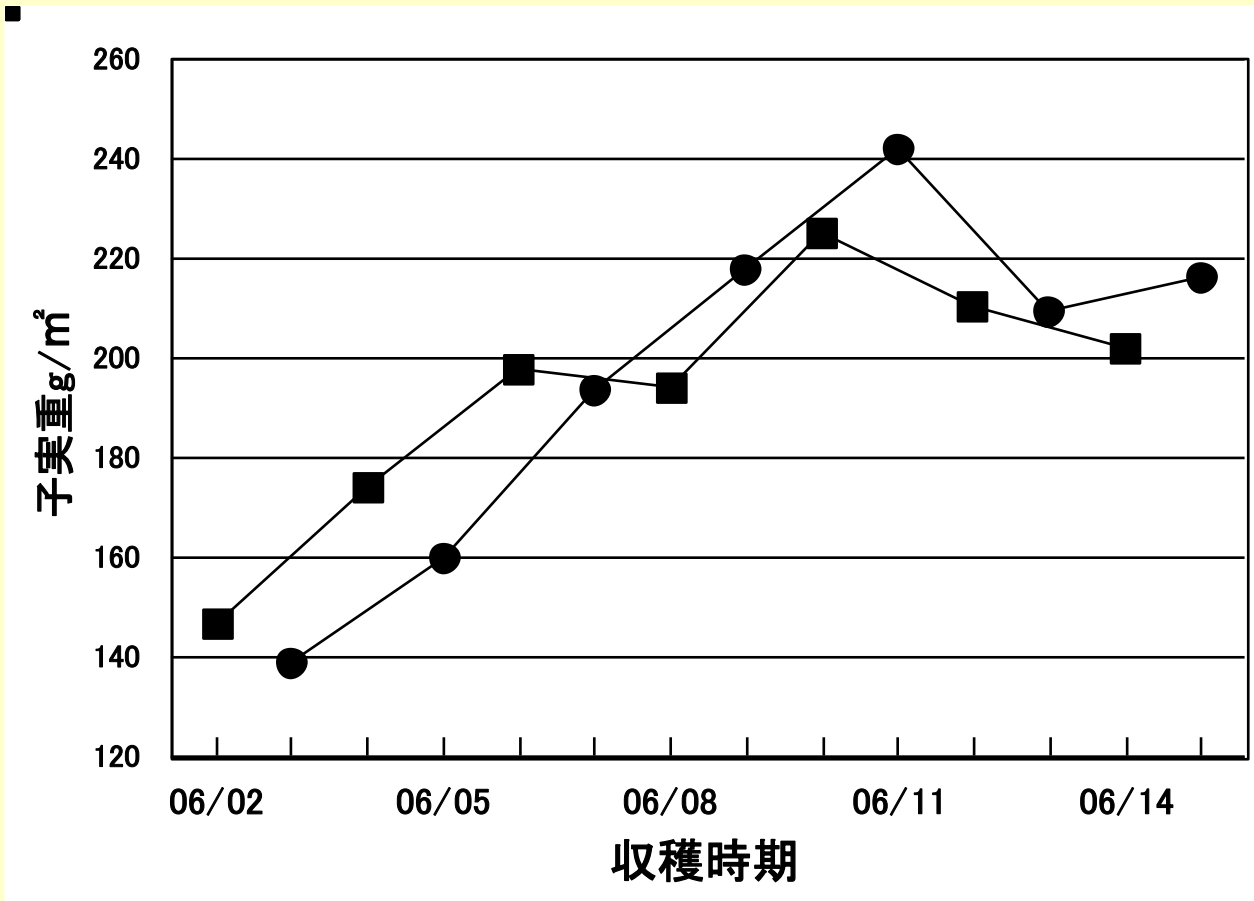
種子の黒化は気温に影響
秋ソバ: 2-4%、春ソバ: 8%増加

収穫の適期



丸抜き粒は日々緑色がうすくなる
収穫が遅いと緑色が薄くなる⇒麺色の品質低下

収穫の適期



春のいぶきは黒化率7-8割が収量最大→収穫適期
適期を過ぎると品質だけでなく、収量減

収穫は黒化率7—8割が適



黒化率9割

丸抜き粒(殻を除いた種子)

美しい緑色は消費者に好まれる)



コンバイン収穫



ロール式受け網

コンバイン収穫では好条件でも1割は損失
収穫は梅雨前期なので作業のできるときに収穫する

収穫調整方法

- 乾燥は品質重視で低温乾燥
 - ー＞高温(40度以上)で風味がなくなる
- 適切な種子の水分量(15%)
 - ー＞過乾燥(13%以下)は蕎麦屋さんが嫌う

ソバ栽培の目標

- 収量：10アール当たり100キロ
 - －＞湿害の回避対策
 - －＞適切な施肥
- 品質：緑色の香り高いそば粉
 - －＞適期収穫（黒化率7－8割）
 - －＞低温での乾燥調製

香り高い淡い緑
高収量高品質

ソバ栽培は連作で収量低下

- ソバは少肥粗放栽培に耐える？
 - ー＞ソバは吸肥力が強く、地力を低下する
- ソバの連作により生育が低下 <ー AIでも指摘
 - ー＞いや地現象？ 微量元素の欠乏？
- ソバの連作により雑草害が大きい
 - ー＞有効な初期除草剤が登場

連作の収量低下を軽減するには
堆肥の施用による地力増強・微量元素の補給